

「宗教はコロナ後の共生社会を どう目指すか」

2022年 3月10日(木) 14時～17時 オンライン開催

私たちは、だれもがみな地球市民であると同時に、それぞれ国や地域において生活を営んでいます。それゆえ、地域社会が平和であることは、それがそのまま世界全体の平和に直結するものであります。このことが21世紀という時代の特徴だと言って良いでしょう。しかし、私たちの間を分断し、共生社会づくりを妨げるものは、貧富の格差、社会の不平等、テロや紛争など数多くあります。最近では、新型コロナウイルスの感染拡大がこれらの問題をいっそう深刻なものにしています。コロナ禍は、トリアージという名の下に、“いのちの選別”をすら生み出すに至りました。

WCRP平和研究所は2021年度のテーマとして「未来の地域社会の平和を目指して—あらゆる分断を乗り越える」を掲げています。そこで今回の平和大学講座では、未来の地域社会、ひいては地球社会の中で、私たちが互いに助け合う共生社会を構築するために、宗教の課題は何であるか、また宗教者はどう行動していくことが求められるか、皆様と共に考えてまいりたいと思います。



<プログラム> (敬称略)

【総合司会】松井ケティ (WCRP平和研究所所員・清泉女子大学教授)

14:00 開会・平和の祈り

開会挨拶：植松誠 (WCRP日本委員会理事長・日本聖公会主教)

14:05 基調発題：岩村義雄 (神戸国際支縁機構理事長・牧師)

15:05 —休憩—

15:15 パネルディスカッション

コーディネーター：竹村牧男 (WCRP平和研究所所員・東洋大学名誉教授)

パネリスト：金子昭 (WCRP平和研究所所員・天理大学おやさと研究所教授)

御手洗隆明 (真宗大谷派教学研究所研究員)

安 勝熙 (WCRP平和研究所所員)

岩村義雄 (基調発題者)

16:05 —休憩—

16:15 登壇者間のディスカッション

16:35 フロアからの質疑応答

16:55 閉会挨拶：岡野英夫 (WCRP日本委員会理事・解脱会理事長)

17:00 平和の祈り・閉会



いわむら よしお

岩村 義雄 (神戸国際支縁機構理事長、牧師)

9.11 テロ(2001年)以降、難民支縁、被災者に寄り添う「ボランティア道」や「田・山・湾の復活」を展開。東北ボランティア(128回)、球磨川災害を始め日本各地で炊き出し、海外ではネパール、シリア、北朝鮮など10カ国以上で孤児の施設に取り組んでいる。(社)神戸国際支縁機構理事長、「みんなで『死』を考える会」会長、エラスムス平和研究所所長、「阪神宗教者の会」代表世話人、「カヨ子基金」前代表、神戸新聞会館講師、神戸国際キリスト教会牧師。



たけむら まきお

竹村 牧男 (東洋大学名誉教授)

1948年、東京生まれ。東京大学文学部卒。文化庁宗務課専門職員、三重大学人文学部助教授、筑波大学教授(哲学・思想学系)等を経て、2002年、東洋大学文学部教授。2009年9月から2020年3月まで、東洋大学学長。現在、WPRC日本委員会平和研究所所員。筑波大学名誉教授、東洋大学名誉教授。専門は、仏教学、宗教哲学。唯識思想研究で博士(文学)。主な著書に、『〈宗教〉の核心——西田幾多郎と鈴木大拙に学ぶ』(春秋社、2014年)、『ブッディスト・エコロジー』(ノンブル社、2016年)、その他、多数。



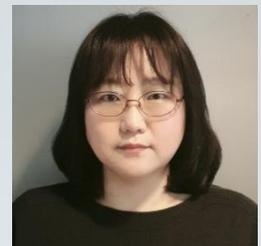
かねこ あきら

金子 昭 (WCRP日本委員会平和研究所所員、天理大学おやさと研究所教授) 倫理学、哲学的人間学、宗教社会福祉論などが専門。現在の関心は宗教間対話、平和の比較思想的 研究など。



みたらい たかあき

御手洗 隆明 (真宗大谷派 教学研究 所研究員) 大谷大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。真宗大谷派擬講。浄土真宗史を専門とする。宗教者災害支援連絡会世話人。



あん すんひ

安 勝熙 (WCRP日本委員会平和研究所所員、同委員会平和推進部長) 博士(社会学)。現在、「宗教」と「平和」をキーワードに「ともに生きる社会づくり」に関心を持っている。